令和6年度　NPO活動資金助成団体・助成事業一覧

（単位：円）

No.	区分	交付団体	事業名	当初交付額	確定額
1	スタートアップ事業	NPO法人 カケルとミチル	不登校児童が主催する イベントの支援事業	300,000	231,096
2	スタートアップ事業	特定非営利活動法人 サイン	夏休み体験イベント 「楽しく学んで作って遊ぼう」	70,000	70,000
3	スタートアップ事業	特定非営利活動法人 ハンド・ミー・ダウン	子ども服アップサイクルイベント	229,000	208,390
4	スタートアップ事業	楽学倶楽部	「てらこや」	170,000	170,000
5	ステップアップ事業	特定非営利活動法人 まちの塾freebee	子ども食堂と連携した 中高生のための学習支援事業	116,000	116,000
		合　計　5件		885,000	795,486

助成金対象事業報告書（令和6年度）

団体名	NPO法人カケルとミチル
事業名	不登校児童が主催するイベントの支援事業
事業（該当区分に〇）	1.（〇）スタートアップ事業　2. ステップアップ事業
事業概要	不登校児童・生徒らが主体的に企画・運営するイベントの開催を当団体が支援します。この事業を通じて、当事者が他者とのコミュニケーションや協力といった積極的な社会参加の経験を積み、実感を伴った達成感を得ることが可能となります。さらに、イベントを通して当事者と地域住民が交流することで、不登校問題について地域社会が理解を深めるきっかけになります。
事業目的	不登校児童による地域開催イベントの企画・運営を、専門職による支援のもとで行う事業を実施します。杉並区の地域全体で不登校への理解と関心が広まると同時に、不登校児童が主体的にイベント運営を行い、積極的な社会参加の経験を積むことを目指します。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実施状況	①実施対象者・対象人数（延べ人数） 杉並区内の不登校児および不登校の経験のある15歳～20歳前後の若者。 対象者人数（延べ人数）：1回あたり5-8名、全10回でのべ50-80名	杉並区内の不登校児および不登校の経験のある15歳～20歳前後の若者。その保護者。 1回あたり2～8名、全11回でのべ40人
	②実施内容 不登校当事者が主催する地域イベントの企画運営をNPO支援の下で開催することによって、不登校児童・生徒らについて地域の方々に知ってもらうことや、不登校児童・生徒らが社会と触れ合う機会を創出する。	本事業では、不登校児童・生徒が主体となり、地域イベントの企画・運営を行うことを支援しました。2024年6月～11月に当事者を交えた打ち合わせと、スタッフの打ち合わせを月１回ずつ実施し、メンバーを募りながらイベント準備を進めました。12月には地域住民を交えたイベントを開催し、不登校児童の社会参加を促進しました。その後、１月に振り返りを行い、参加者の学びを深めました。本活動を通じ、当事者の達成感や自信の向上、地域社会の理解促進につながりました。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 実施場所：杉並区内公共施設（例：ウェルファーム杉並など） 実施回数：イベント打ち合わせ全10回（うち前半5回はグループミーティングの参加者を増やすために参加者自身がどう動いていくことができるかを話し合い、実際に新メンバー集めの活動を行う。後半5回は新メンバーもイベント運営の一員として迎え、イベント開催に向けての企画・準備を行う）、イベント1回、イベント振り返り1回	実施場所：杉並区内公共施設（コミュニティふらっと阿佐谷，阿佐谷地域区民センター） 実施回数：6月～8月は対面月1回・オンライン月1回開催，9月～1月は対面1回開催（オンラインは月１回スタッフの打合せ） イベントは12月に実施し，1月に振り返りを行いました。
	④実施体制（実施方法や設備、従事者等の確保状況） 〈必要人員〉・イベント打ち合わせ・イベント当日・振り返りを支援する運営スタッフ（当日ファシリテーター・会の運営）→2名/1回.法人外より2名・イベント当日の有償ボランティアスタッフ（事務作業・会場設営・会計管理）→5名.法人外より5名・不登校児童・生徒らへの支援に関するアドバイザー→3名.法人内より3名 〈必要設備〉 イベント打ち合わせ（対面）：ホワイトボード・マーカー（会場レンタル）	イベント打ち合わせ・イベント当日・振り返りを支援する運営スタッフ（当日ファシリテーター・会の運営） →2名/1回.法人外より2名
	”⑤広報活動（活動や事業の周知・PRの状況） チラシ配布・団体webサイト・SNS・広報すぎなみ ”	チラシを作成し、杉並区内施設への配布、杉並区不登校支援団体への周知、児童精神科に特化した訪問看護ステーション利用者への周知をおこないました。

団体名：　NPO法人カケルとミチル

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

効果・成果 及び 自己評価

事業計画時	事業実施後
当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
ナンナルグループミーティングの参加者が新たな仲間を募ることで、より多くの人を巻き込んだ活動となり、不登校や引きこもりの課題を社会に問いかける第一歩とする。また、不登校児童・生徒は専門的支援のもとでイベントの計画・実行を経験し、達成感や自信を持つことにつなげる。	参加者はイベント運営を経験することで達成感や自信を得ることができ、今後の主体的な社会参加への意欲向上につながりました。集客の点では課題が残りましたが、杉並区内の人々に不登校を経験した若者の思いや考えを知ってもらう機会をつくることができたのは、本事業の大きな成果となりました。
【自己評価】 いずれかにチェック（「レ」）を入れてください □①あった　☑②概ねあった　□③あまりなかった　□④ほとんどなかった	
団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
当法人は児童精神科医や作業療法士、公認心理師などの専門職が在籍し、杉並区阿佐谷の児童精神科特化型訪問看護ステーションと連携して不登校児童の居場所づくりを行ってきた。杉並区では平成27年度から令和3年にかけて不登校児童が2倍以上に増加しており、本事業では彼らが主体的に活動し、協力しながら成長できる機会を提供したい。	専門職（作業療法士、公認心理師）の支援が充実した中で、不登校児童・生徒が安心して活動できる環境づくりを行うことができました。
【自己評価】 いずれかにチェック（「レ」）を入れてください □①できた　☑②概ねできた　□③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった	
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。	
杉並区内における不登校児童・生徒およびその保護者らに対する理解が広がることが期待される。 また、新メンバー募集やイベント開催の過程を通じて、同じ問題を抱えている児童・生徒およびその保護者にこの活動を知ってもらい、興味を持ってもらうことや仲間に加わっていただく人を増やしていく。	イベント当日は残念ながら新規参加者が少ない状況で、その点は大きな課題となります。しかし、その後1月には新たに2組の親子が参加してくださり、今後も少しずつメンバーは増えていく見込みです。 参加者は12月のイベントをとおして、改めてこのコミュニティについて考えを深めたいと思うようになり、1月の振り返りでは、8名が活発に意見交換をする場面が見られました。ナンナルグループミーティングへの参加を経て不登校を乗り越えた生徒のうち、4名から新たな進路や挑戦の報告が聞けたのも嬉しい成果でした。（専門学校進学予定1名・大学進学予定1名・中学校への再登校準備1名・新たな習い事を始めた人1名）このコミュニティでの活動が、参加者の主体的な社会参加にもつながっていると思います。
【自己評価】いずれかにチェック（「レ」）を入れてください □①できた　☑②概ねできた　□③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった	
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。	
視察に来てくださった方から「ここは子どもたちにとって必要な居場所だと思う」という言葉をいただき、とても嬉しく励みになりました。一方、不登校支援団体の方からいただいた「不登校の子どもたちにとってハードルが高い活動だと思う」という意見も、本事業をよりよくしていくためのヒントとして、今後の運営に活かしていきたいと思います。	
【自己評価】 いずれかにチェック（「レ」）を入れてください □①広がった　☑②多少広がった　□③広がらなかった	

団体名：　NPO法人カケルとミチル

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	オンライン形式だと、参加している子どもたちにとってコミュニケーションの難易度が高く，対面のほうが安心できるとの声が多かったことから、事業の実施体制を変更した点（オンライン形式は子ども参加なし）と、子どもたちに発達の特性や対人関係の苦手があるため、事業の実施規模を縮小した。予定していたイベントの準備・運営・振り返りの各段階を順調に進め、参加者の主体的な活動を促すことができました。当日の新規参加者が少なかったこと、不登校児童生徒の心身の健康状態からイベント開催日が予定より遅れたこと等はありましたが、概ね当初の計画どおり実施することができました。
	【自己評価】いずれかにチェック（「レ」）を入れてください □①できた　□②概ねできた　□③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	イベント会場での参加者への説明を通じて、基金の趣旨や重要性を周知しました。（しかし、イベントの規模的に普及啓発の効果は限定的であると思われました。）
	【自己評価】いずれかにチェック（「レ」）を入れてください □①できた　□②概ねできた　☑③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった

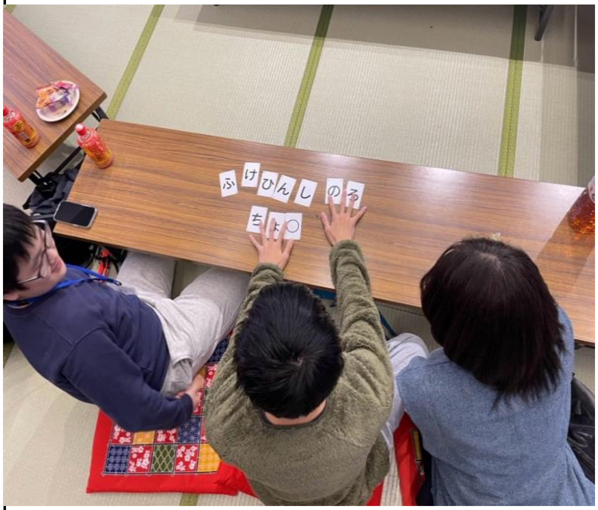
5 事業に関する意見収集の成果について

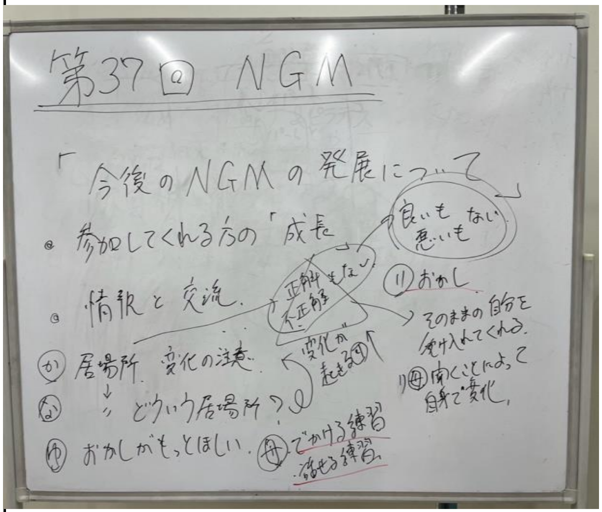
意見収集の方法・成果	**事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。**
	事業実施の際、参加者全員から感想を聞き、メンバーで共有する時間を設けました。また、翌月のグループミーティングでは、イベントの振り返りをおこない、よりよいコミュニティづくりについても意見交換をすることができました。
	参加者のうち、どのくらいの人数から感想や意見を集めることができましたか。
	当日の終わりの時間に、視察に来ていた方も含めて参加者全員から本時の感想を聞くことができました。
	貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。
	本事業に対して、参加者からさまざまな感想や意見が寄せられました。 楽しい時間が過ごせたと話す参加者が多数、中には「人が多くて緊張しちゃう」という声もありましたが、「毎回参加人数に幅があるけれど、今回のような賑やかな会もよかった」という新しい経験を肯定的に捉えた発言もありました。 視察に来ていた方からも、「議題について，みなさんとてもよく話し合っていてすごいと思った」「和気あいあいとしていてよい，参加者が披露したマジックショーがとても面白かった」と感想をいただきました。
収集した意見の活用	**収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。**
	収集した意見をもとに、１月の振り返りでは、今後のナンナルグループミーティングのあり方について話し合いました。 参加者からは、「メンバーが増えて新しくなっていく中でも、いつでも安心して来られる居場所であることを大事にしたい」「どんな意見に対しても否定しない場であることを大事にしたい」との意見が出されています。 これらの意見をもとに、「変化してよい部分」「変化させず守っていく部分」を明確にしながら、今後のコミュニティづくり・運営を行っていきたいと考えています。

6 課題と今後の活動について

課題と今後の活動	不登校児童生徒の心身の健康に配慮しつつ、無理のない計画と準備、参加者が安心できるコミュニティづくりを継続し、より多くの若者が社会と関わる機会を持てるよう活動を発展させていきたいです。

WORLD
WILL
XPECT
Sanctity




第37回 NGM
「今後のNGMの発展について」
参加してくれる方の「成長」
情報と交流
良いも悪いもない
正解も不正解もない
おかし
そのままの自分を受け入れてくれる
居場所 変化の注意
どういう居場所？
変化が起きる
おかしがもっとほしい
でかける練習
話せる練習
自身で変化

団体名：	NPO法人カケルとミチル

８ 収支決算

事業費	【D】 239696	助成金	【E】 231,096

		予算額	決算額	決算額内訳
収入	団体負担金	46,000	8,600	団体負担金
	参加費・資料代等			
	その他の収入			
	計	【C】 46,000	【F】 8,600	自己資金等
	助成金	【B】 300,000	【E】 231,096	NPO活動資金助成金
	合計	【A】 346,000	【D】 239,696	

	費目	予算額		決算額		決算額内訳
		助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
支出	①謝礼金（講師が団体内部の場合は対象外）			220,000		イベント打合せ・当日・振り返りミーティング運営の謝礼（4,000円/時×2.5h×2名×11回）
	小計	255,000	0	220,000	0	
	②旅費・交通費					
	小計	0	24,000	0	0	
	③消耗品費			11,096		食料品代（お菓子代） 11,096
	小計	45,000	0	11,096	0	
	④役務費					
	小計	0	0	0	0	
	⑤印刷製本費（デザイン・原稿作成含む）					
	小計	0	0	0	0	
	⑥使用料・賃借料				8,600	6/8, 7/13, 8/17, 9/14, 10/12, 11/16, 12/14,1/18 杉並区の公共施設で開催
	小計	0	22,000	0	8,600	
	⑦その他の経費					
	小計	0	0	0	0	
	合計			231,096	8,600	68,904 戻入額【B】ー【E】
		【B】 300,000	【C】 46,000	【E】 231,096	【F】 8,600	
		【A】 346,000		【D】 239,696		

助成金対象事業報告書（令和6年度）

団体名	特定非営利活動法人サイン
事業名	夏休み体験イベント「楽しく学んで作って遊ぼう」
事業（該当区分に〇）	（1.）スタートアップ事業　2. ステップアップ事業
事業概要	地域と協力してイベントを実施し、子どもたちに様々な体験活動を提供します。小学校の夏休み期間中、杉並区内在住・在学の小学生を対象に読書教室、工作教室、水鉄砲大会を開催します。
事業目的	・地域と協力してイベントを行い、経験不足の子どもたちに様々な体験活動を提供する。 ・長期休暇中の子どもの孤立を防ぎ、夏休み明けの登校渋りを緩和する。 ・多世代との交流を通し、子どものコミュニケーション力や自己肯定感を高め、将来へのモチベーションや生きていく力に繋げる。

1　事業の実施状況　及び　自己評価

	事業計画	事業実施結果
実施状況	①実施対象者・対象人数（延べ人数） 杉並区在住・在学の小学生 1.読書教室　40名 2.工作教室　45名 3.水鉄砲大会　80名　（延べ165名）	杉並区在住・在学の小学生 1.読書教室　20名 2.工作教室　43名 3.水鉄砲大会　85名　（延べ148名）
	②実施内容 1.図書館のバックヤードを見学して、公立図書館の利用方法や本のおもしろさを伝えます。 2.色々な形の端材を自由に使って好きな物を作る工作教室。道具の使い方も教えます。 3.水鉄砲を持って集合。びしょ濡れになって遊んじゃえ！夏休み最後の恒例イベント。	計画通り実施
	③実施回数・スケジュール・実施場所 1. 7月28日(日)14:00～16:00・120分×1回・コミュニティふらっと永福 第1・2・3集会室 2. 8月4日(日)10:00～15:00・60分×3回・セシオン杉並 工芸室 3. 8月29日(木)9:30～12:30・60分×2回・杉並区立杉並第六小学校 校庭・南校舎	計画通り実施
	④実施体制（実施方法や設備、従事者等の確保状況） 1.JPIC読書アドバイザーの講師1名・スタッフ5名 2.東京土建杉並支部の講師2名・スタッフ5名 3.地域ボランティア5名・スタッフ6名	計画通り実施
	⑤広報活動（活動や事業の周知・PRの状況） チラシ配布・団体WEBサイト 杉並区教育委員会の後援申請を行い、全区立小学校にチラシをデータ配信する。 区の公式ホームページと広報すぎなみに掲載する。	実施会場や当団体の他の事業活動にてチラシを配布。 団体のWEBサイトやSNSで告知。 杉並区教育委員会の後援名義を取得し、全区立小学校の児童と保護者にチラシをデータ配信。 協働推進係を通して、区役所、図書館、児童館にチラシを配架。

団体名：	特定非営利活動法人サイン

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

効果・成果 及び 自己評価

事業計画時	事業実施後
当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
各種イベントを開催してきた中で、夏休みの子どもの居場所が少なくなり、安心して遊べる居場所が欲しいという声を多く聞く。また、イベントの申込人数も冬休み、春休みと比べて非常に多く、需要の高さを感じるため。	今年も猛暑の中、子どもたちは日中公園にも行けず、保護者からは安心して行かせられる地域のイベントがあるのは有難いという声をたくさんいただきました。ただ、あくまでスポット開催のため「家で1人で留守番なので、夏休みの子ども達の居場所を作ってほしい。」「夏休みの子ども達の居場所や宿題を見てくれる場所を作ってほしい。」というニーズには応えきれず、今後も検討を重ねて行く予定です。
【自己評価】 いずれかにチェック（「レ」）を入れてください ☐①あった ☑②概ねあった ☐③あまりなかった ☐④ほとんどなかった	
団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
団体の主事業である、放課後子ども教室で繋がりのある、地域の方々や企業、団体と協力してイベントを行い、地域資源を最大限活用するとともに、地域全体で子どもを見守る子育てコミュニティを目指す。東京土建杉並支部、OgiLOVE、杉並第六小学校、高円寺南児童館、近隣町会のご協力のもと、一緒に活動を行う予定。	夏休みのイベント開催は4年目になりますが、年々協力してくださる地域の方々や企業・団体が増えていることを実感しています。毎年ご協力いただいている杉並区教育委員会、杉並第六小学校、高円寺南児童館、東京土建杉並支部、地域団体「OgiLOVE」に加え、永福図書館、JPIC（出版文化産業振興財団）など新たな繋がりができ、多くの方々に支えられイベントを実施することができました。特に水鉄砲大会には、阿佐ヶ谷中学校の学生や、馬橋ご近所付き合い広目隊の方々がボランティアとしてご参加くださり、地域の一大イベントとして定着しています。
【自己評価】 いずれかにチェック（「レ」）を入れてください ☑①できた ☐②概ねできた ☐③あまりできなかった ☐④ほとんどできなかった	
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。	
・親の就労状況や生まれ育った環境に関係なく、すべての子どもに等しく、遊びや学びのチャンスが与えられる。（生活困窮者の参加費は応相談とする。） ・地域の市民、企業、行政と協力して、誰一人取り残されない地域子育てコミュニティを作り、全ての子どもが健やかに育つ地域社会を目指す。 ・地域の大人にとっても活躍の場となり、大人も子どもも育み合える居場所ができる。	・杉並区NPO活動資金助成を2年間活用させていただき、杉並第六小学校のみを対象としていたイベント事業を、昨年度は近隣の小学校に拡げて参加者を募り、今年度は杉並区の全区立小学校の児童と保護者にチラシをデータ配信し、杉並区全域から参加者を募ることができました。より多くの子どもたちに学びや遊びのチャンスを与えられたとともに、他の学校の児童とも交流できる貴重な機会を作ることができました。 ・子どもたちに様々な学びを教えていただいた講師の方々や、一緒に遊んでいただいた地域ボランティアの方々など、学生からご年配の方まで活き活きと活動してくださっていたのが印象的でした。地域の中で多世代が繋がり合える「みんなの居場所」を作ることができたと感じています。
【自己評価】いずれかにチェック（「レ」）を入れてください ☐①できた ☑②概ねできた ☐③あまりできなかった ☐④ほとんどできなかった	
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。	
今回のイベント開催にあたり、地域で関わってくれる団体や個人を広げていくことも一つの目的と定めておりました。よい企画内容にしていきたいという思いが繋がり、あらたに参画してくださいました方々のご協力や、多くの力と視点を得て、開催することができました。地域活動を進めていく上で、企業や区の関係施設、住民の方と創り上げていくことが必要であり大切であると考える時、本事業の成果を強く感じます。また、次世代育成という視点から、中学生ボランティアをはじめて募り、14名の中学生が準備や買い出し等、意識をもって取り組んでくれたことも大きな成果であり、これまで自分たちが与えてもらっていた気持ちを、今度は自分たちが主体となって還元していく取り組みは、次年度以降も続けていきたいと考えております。	
【自己評価】 いずれかにチェック（「レ」）を入れてください ☑①広がった ☐②多少広がった ☐③広がらなかった	

団体名：	特定非営利活動法人サイン

３ 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	イベント開催については概ね予定どおり実施できましたが、集客や広報活動で課題が残る結果となりました。広報すぎなみへの掲載は、会場手配（さざんかねっとの抽選）に時間がかかり、断念せざるを得ませんでした。今年度から始まった区立小学校へのチラシの電子配布については、最初の読書教室で期待していた効果が得られず、40名の定員に対して20名の応募に留まりました。その後、告知方法の軌道修正を図り、協働推進係を通して、児童館、図書館、区役所にチラシを配架していただき、工作教室や水鉄砲大会はほぼ予定通りの参加人数を集めることができました。
	【自己評価】 いずれかにチェック（「レ」）を入れてください ☐①できた　☑②概ねできた　☐③あまりできなかった　☐④ほとんどできなかった

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	チラシにロゴマークを入れたり、会場にタペストリーを掲げ、受付には募金箱を設置したりしましたが、基本的に子どもが参加するイベントのため、普及啓発活動に貢献できたかどうかは不明です。
	【自己評価】 いずれかにチェック（「レ」）を入れてください ☐①できた　☐②概ねできた　☑③あまりできなかった　☐④ほとんどできなかった

５ 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	**事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。**
	それぞれのイベント終了後に参加者（保護者）へメールでWebアンケートを依頼しました。
	参加者のうち、どのくらいの人数から感想や意見を集めることができましたか。
	延べ148名の参加者のうち、39名からアンケートの回答を集めることができました。（回答率26.4％）
	貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。
	1.読書教室 学校や図書館の本を大事にしようと思った。/将来、司書さんになりたい。/低学年には長く感じたようで、途中からガヤガヤして少し気になった。 2.工作教室 自分の発想で自由に作れる、というのが嬉しかったようで大満足の表情で帰宅しました。/＋500円とかで時間延長＆色塗りとかあると嬉しいです。/帰宅後にヤスリを購入し、作った作品に丁寧にヤスリをかけていました。/本格的な道具の使い方も教えて貰い、さすが職人さんだなぁと思いました。/友達がとがった木刀を作り、帰り道で振り回していて怖かったです。 3.水鉄砲大会 水鉄砲だけでなく、かき氷や駄菓子屋さんがあったことが嬉しかったようでとても喜んでおりました。/夏休みの最後に良い思い出となったようです。/楽しかったけど、リレーがごちゃごちゃだった。昨年の逃走中が楽しかったからやりたかった。/子供たちがとても楽しかったと喜んで帰ってきました。協力されているスタッフの方々や学生の方々も熱心で素晴らしいと思います。
収集した意見の活用	**収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。**
	活動内での感想やアンケートの回答で「来年もぜひ参加したいです！」「いつも子どもが楽しめる企画をありがとうございます。」というお声をたくさんいただき、本事業が地域の中で定着してきており、今後も継続が期待されている事を実感しています。しかしながら、上記のようにそれぞれの活動でご指摘いただいた改善点は真摯に受け止め、来期のイベントや今後の活動に生かすよう改善を図っていく予定です。

６ 課題と今後の活動について

課題と今後の活動	地域に定着しつつある事業のため、今後も継続して活動を行っていく予定ですが、今回の経験で学んだ参加者のニーズやご意見を参考に、活動内容を見直し、また新たなイベントにも挑戦していきたいと考えています。また、今年度は杉並区全域から参加者を募り、事業を拡大する上でのモデルケース作りに助成金を活用させていただきましたが、杉並区内の色々な場所でも地域一体型のイベントを展開していけたらと考えています。

7　活動状況について

団体名:　特定非営利活動法人サイン

★具体的な活動風景の写真などを貼付

団体名： 特定非営利活動法人サイン

８ 収支決算

事業費	【D】 130,698	助成金	【E】 70,000

		予算額	決算額	決算額内訳
収入	団体負担金	1,174	3,698	団体負担金
	参加費・資料代等	20,000	10,000	①読書教室参加費@500×20名
		22,500	21,500	②工作教室参加費@500×43名
		24,000	25,500	③水鉄砲大会参加費@300×85名
	その他の収入			
	計	【C】 67,674	【F】 60,698	自己資金等
	助成金	【B】 70,000	【E】 70,000	NPO活動資金助成金
	合計	【A】 137,674	【D】 130,698	

	費目	予算額		決算額		決算額内訳
		助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
支出	①謝礼金（講師が団体内部の場合は対象外）			5,000		①読書教室講師謝礼@5,000×1名
					15,000	①読書教室スタッフ謝礼@3,000×5名
				10,000		②工作教室教師謝礼@5,000×2名
					15,000	②工作教室スタッフ謝礼@3,000×5名
				15,000		③水鉄砲大会ボランティア謝礼@3,000×5名
					30,000	③水鉄砲大会スタッフ謝礼@3,000×10名
	小計	30,000	66,000	30,000	60,000	
	②旅費・交通費					
	小計			0	0	
	③消耗品費			6,482		①読書教室文房具代（ケント紙、マーカー、インク他）
				5,000		②工作教室材料費（木材、釘など一式）
				220		②工作教室衛生用品費（ポリ袋）
				6,457		③水鉄砲大会材料費（サングラス、シール、紙コップ他）
	小計	19,000		18,159	0	
	④役務費			807	193	①読書教室保険料(参加者20名、講師1名/ｽﾀｯﾌ5名）
				1,478	165	②工作教室保険料(参加者43名、講師2名/ｽﾀｯﾌ5名）
				3,296	220	③水鉄砲大会保険料(参加者85名、ﾎﾞﾗ5名/ｽﾀｯﾌ6名）
	小計	5,966	1,192	5,581	578	
	⑤印刷製本費（デザイン・原稿作成含む）			1,580		①読書教室チラシ印刷費A4片面カラー100部
				3,360		②工作教室チラシ印刷費A4片面カラー400部
				3,890		③水鉄砲大会チラシ印刷費A4片面カラー400部
	小計	4,834	482	8,830	0	
	⑥使用料・賃借料			2,900		①読書教室コミュニティふらっと永福施設使用料
				2,650		②工作教室セシオン杉並工芸室施設使用料
				2,000		③水鉄砲大会備品（かき氷機等）レンタル料
	小計	10,200		7,550	0	
	⑦その他の経費					
	小計			0	0	
	合計			70,120	60,578	0 戻入額【B】－【E】
		【B】 70,000	【C】 67,674	【E】 70,000	【F】 60,698	
		【A】 137,674		【D】 130,698		

助成金対象事業報告書（令和6年度）

団体名	特定非営利活動法人 ハンド･ミー･ダウン
事業名	子ども服アップサイクルイベント
事業（該当区分に〇）	(1．)スタートアップ事業　2．ステップアップ事業
事業概要	役目を終えた子ども服をアップサイクルするワークショップや、アップサイクルに取り組むハンドメイド作家や企業のコーナー等、アップサイクルを通して環境問題へ関心を持ってもらうイベントを開催。当団体が開催する子ども用品無料交換会「おさがりひろば」と同時に開催することで多くの子育て中ファミリーへ広く発信。
事業目的	不要になったものを捨てるのではなく生まれ変わらせるアップサイクルを伝え、大量消費社会に対する問題を考え直す取り組み。それを子ども服に特化することで、単なる環境保全活動ではなく環境学習や子育て支援にもつながる。環境問題への関心を高め、資源循環型社会の実現を目指す。

1　事業の実施状況　及び　自己評価

	事業計画	事業実施結果
実施状況	①実施対象者・対象人数（延べ人数） イベント来場者 360世帯＋当日来場者20世帯程度 うち参加見込み 50名程度/1イベント	第1回目　来場者数約276名 ワークショップ参加者計38名 第2回目　来場者数381名 ワークショップ参加者計41名
	②実施内容 【内容】 当団体独自の子ども服アップサイクルワークショップや、アップサイクルに取り組むハンドメイド作家・団体・企業のコーナーを中心に展開。子ども用品交換会「おさがりひろば」も同時開催。	第1回目 FromKidsワークショップ「手形足形アートでクリスマスツリー作り」 出展者数　延べ7展 第2回 FromKidsワークショップ「布巻きハンガー作り」 出展者数　延べ4展
	③実施回数・スケジュール・実施場所 実地場所：セシオン杉並 展示室 2024年10月第一回開催目標 2025年2月第2回開催目標	実地場所：セシオン杉並 展示室 2024年11月26･27日 第1回目開催 （セシオン杉並の展示室が10月中は行政使用のため使用不可だった為） 2025年2月20･21日 第2回開催
	④実施体制（実施方法や設備、従事者等の確保状況） (4) 講師1名 アシスタント1名、おさがりひろば運営スタッフ9名＋ボランティアスタッフ 複数名	実施体制 第1回目　講師1名、おさがりひろば運営スタッフ9名、ボランティアスタッフ18名 第2回目　講師1名、おさがりひろば運営スタッフ9名、ボランティアスタッフ17名
	⑤広報活動（活動や事業の周知・PRの状況） おさがりひろば同時開催をして集客。 チラシ配布・団体WEBサイト・SNS	おさがりひろば同時開催（第1回、第2回） チラシ･･･配布、すぎなみ協働プラザ専用ラック配架、杉並区役所チラシ配架（第1回のみ）、団体WEBサイト、SNS

団体名： 特定非営利活動法人 ハンド・ミー・ダウン

2 実施事業の効果・成果　及び　自己評価

効果・成果　及び　自己評価

事業計画時	事業実施後
当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
以前より主催してきた子ども服の無料交換会でのアンケート結果から、妊娠中、出産直後の親子から交流の場を求める声が届いていた。実際にFromKidsを目的にイベントに来る親子もいることをアンケート結果から実感しているので、事業内容を充実させたい。	第1回目は、出展が7店舗のうち、使用しなくなったボタン、毛糸をしようしたワークショップ、ハギレで作成したハンドメイド作品の販売等が盛況だった。 FromKidsワークショップは、第1回は手形足形アートの装飾に、役目を終えた子ども服の絵柄を切り取り、パーツとして使用。第2回目は布巻きハンガーを実施。実際に触って、作品として触れることで、役目を終えた服の活用方法を実感してもらえた。
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください □①あった　☑②概ねあった　□③あまりなかった　□④ほとんどなかった	
団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
Fromkidsの参加者は主に妊娠中、子育て中の親子が多い。会話が多く生まれることで、区のファミリーサポート情報や保育園情報の提供につながる。あるいは只の雑談の中で子育て相談や、不安感の払拭、辛いと思っていることに対して、生の声を対面で届けることができる。アップサイクルという言葉に初めて触れる人々も多い。実際に自分でゼロからやるにはハードルが高い人でも、下準備をしておくことで参加率もあがり、また、自分の子供の古着を使うことで、特別感も生まれ、アップサイクルやSDGsへの取り組みへの意識改善が見込め、住みよい杉並にするためにつなげる。	おさがりひろばを同時開催したことで、通常我々のイベントに参加している方々が、スムーズに参加できた。第2回目は、前回には用意できなかったアップサイクルの紹介スペースを用意。アップサイクルの概要や歴史、今まで我々が行ってきたワークショップの写真を展示した。
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください □①できた　☑②概ねできた　□③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった	
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。	
現在はイベントの1コーナーであり、席が足りずに参加を見合わせる親子もいる。この他のブースは運営費をまかなうための企業出展と募っている。助成を受けることで、企業出展ではなく、杉並区を主な活動拠点としている環境団体や、アップサイクルを行っている団体の出展、共催等にも力を入れていく。	アンケートの中で「アップサイクルのお店があり、興味がもてた」、「ボタンアートの人と出会えた」「ハンドメイド作品がかわいかった」「紐に通せない、穴が小さなボタン等をお土産に持って帰ったのですが、無料コーナーのお洋服でボタンが取れている洋服に出会い、ダメージのある服もお直しの見通しがたってダメージのある服も持ち帰りやすかった」との意見をもらった。
【自己評価】いずれかにチェック(「レ」)を入れてください □①できた　☑②概ねできた　□③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった	
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。	
通常の交換イベント(おさがりひろば)ではなく、アップサイクルに特化したイベントであることを明確にしたことで、アップサイクルへの意識の向上につながり、通常よりもワークショップ参加者が多かった。また、ワークショップで作った作品をInstagram等で投稿してくださる方が何人かおり、理解者は広まりつつあると認識している。	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください ☑①広がった　□②多少広がった　□③広がらなかった	

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	企業出展、個人出展者で、アップサイクルに関連している、興味があるところに限定したため、募集が難しかった。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください □①できた　□②概ねできた　☑③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	のぼり、タペストリー、募金箱等を設置。開催中は「杉並区NPO支援基金によるアップサイクルイベントであること」のアナウンスを入れた。 第2回では「杉並区NPO支援基金コーナー」をつくって、チラシも置いた。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください ☑①できた　□②概ねできた　□③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった

5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	**事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。**
	事後アンケートやInstagramへの感想投稿の促進を実施した。
	参加者のうち、どのくらいの人数から感想や意見を集めることができましたか。
	第1回目　参加者276名中47名 第2回目　参加者381名中48名
	貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。
	アップサイクルに触れる機会があってよかった 布巻ハンガーは実用性があってよかった。 毎回、リフレッシュになります。 無料イベントなのに、とても充実していた。 もう少し出展者が多い方がよかった。
収集した意見の活用	**収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。**
	おさがりひろば、FromKidsのブランド化、継続開催を目指していく中で、アップサイクルの周知、啓発を意識した企画作りをしていく。

6 課題と今後の活動について

課題と今後の活動	杉並区の環境団体や、子育て支援団体とのつながりができなかった。おさがりひろば、FromKids事業の継続開催とアップサイクルの周知、ワークショップによる実践の啓発を目指していく。

7 活動状況について

団体名: 特定非営利活動法人 ハンド･ミー･ダウン

★具体的な活動風景の写真などを貼付

団体名： 特定非営利活動法人 ハンド・ミー・ダウン

８ 収支決算

事業費	【D】 312,526	助成金	【E】 208,390

		予算額	決算額	決算額内訳
収入	団体負担金	70,840	1,636	
	参加費・資料代等			
	その他の収入	160,000	80,000	企業出展費＠40,000×2社
		50,000	22,500	一般・団体出展費＠2,500×9店
	計	【C】 280,840	【F】 104,136	自己資金等
	助成金	【B】 229,000	【E】 208,390	NPO活動資金助成金
	合計	【A】 509,840	【D】 312,526	

	費目	予算額		決算額		決算額内訳
		助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
支出	①謝礼金（講師が団体内部の場合は対象外）			81,600		WS講師＠5,100×1名×4H×2日×2回
	小計	81,600		81,600	0	
	②旅費・交通費			20,000		ボランティア交通費 ＠1,000×5名×2日×2回
	小計	20,000		20,000	0	
	③消耗品費				7,560	ワークショップ材料費等、消耗品費
	小計		60,000	0	7,560	
	④役務費			0	0	※チラシ配送費は定期便にて配送したため計上なし。 ※ボランティア保険実施せず
	小計	17,400		0	0	
	⑤印刷製本費（デザイン・原稿作成含む）			100,000		告知チラシデザイン費A4両面カラー×2回
				2,140		9/2告知チラシ印刷費A4両面カラー200部
				2,080		9/30告知チラシ印刷費A4両面カラー100部
				2,570		11/13告知チラシ印刷費A4両面カラー100部
	小計	110,000	85,240	106,790	0	
	⑥使用料・賃借料				24,000	会場費（セシオン杉並展示室）※後援料金 ＠6,000×4日(2024/11/26・27、2025/2/20・21）
					72,576	運搬費2tロングトラック往復×2回
	小計		135,600	0	96,576	
	⑦その他の経費					
	小計			0	0	
	合計			208,390	104,136	20,610 戻入額【B】ー【E】
		【B】 229,000	【C】 280,840	【E】 208,390	【F】 104,136	
		【A】 509,840		【D】 312,526		

助成金対象事業報告書（令和6年度）

団体名	楽学倶楽部
事業名	「てらこや」
事業（該当区分に○）	1．スタートアップ事業（○）　2. ステップアップ事業
事業概要	本事業は子どもたちが安心して勉強したり、遊んだりする環境づくりを主眼として「子どもの居場所づくり」と併せて「学習支援」をおこなう。
事業目的	「てらこや」の開催を目的とする。 就学後の子どもたちの受け皿が必要である。学童クラブの施設は充実し改善してきたが人的不足もあり受入数は満足とは言えない。また、学童クラブになじめない子ども、家に閉じこもりがちな子ども、月会費が負担できない家庭もある。 楽学倶楽部「てらこや」は手を差し伸べ居場所と学習支援の両立をはかる。 違う学校の子ども同士の交流によって社会性も身につく。特に小学低学年は、学校や社会に慣れていないため、保護者の負担も大変である。不登校や家の中に閉じこもってゲームに 夢中になっている子どもがふえている。一日2時間でも「てらこや」を利用してもらうことで、 保護者の助けになり地域に役立つことを目的とする。

1　事業の実施状況　及び　自己評価

	事業計画	事業実施結果
実施状況	①実施対象者・対象人数（延べ人数） 対象：小学校1年生～4年生を対象に実施　。 人数：年間延べ人数：180人 （10名×2回/月×9か月）	①実施対象者は計画通り小学1年から4年生とした。 年間延べ180人の見込みに対して、風邪や急用の欠席もあり160人(88.8%)となった。参加は1年生から4年生だった。
	②実施内容 毎月2回、地域小学校の修学時程にあわせて15時半から17時半まで子どもたちに‘算数’を中心に希望に応じて教える。国語の読み書きは学校で教えており、算数は問題の文章を読み理解することで解くことができることを踏まえて算数に絞っている。また講師も工学系であるのも理由である。	②実施内容 毎月2回（水曜日）15時半から17時半まで予定通り実施した。 子どもたちには「算数のプリント」を準備して、各人の進捗に合わせて学習させた。宿題をやりたい者はそれを優先するなど、子どもたちの自主性を尊重するようにした。 勉強の合間に気分転換をはかることと、子どもたちが「てらこや」に来たいという気持ちを維持するため、’カルタ合戦’や’羽根つき’などの楽しい時間も取り入れた。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 場所：10月まで荻窪地域区民センター 11月からは民間の貸室 （区民センター改修の為） 日程：令和6年6月～令和7年2月 回数：月2回	③実施回数・スケジュール・実施場所 場所：　10月まで荻窪地域区民センター 11月からは中道寺の会議室 （区民センター改修の為） 日程：令和6年6月～令和7年2月 回数：月2回
	④実施体制（実施方法や設備、従事者等の確保状況） 講師：　2名 ボランティア：1名 設備：　机、椅子は会議室のもの プリンター、PCは中澤個人のもの	④実施体制（実施方法や設備、従事者等の確保状況） 講師：　2名 ボランティア：3名 設備：　机、椅子は会議室のもの プリンター、PCは中澤個人のもの
	⑤広報活動（活動や事業の周知・PRの状況） [チラシ配布・団体WEBサイト・SNS・広報すぎなみ・すぎなみ地域コム　] チラシを作成し、小学校や町会回覧など、保護者間のSNSを利用 [　その他　] 掲示板：「でんごんくん利用」	⑤広報活動（活動や事業の周知・PRの状況） チラシを作成し、小学校に協力をお願いした。町会回覧板、掲示板「でんごんくん」への掲示。一番の効果は保護者間の口コミであった。

団体名：　楽学倶楽部

2　実施事業の効果・成果　及び　自己評価

<table>
<tr><td rowspan="13">効果・成果　及び　自己評価</td><td>事業計画時</td><td>事業実施後</td></tr>
<tr><td colspan="2">当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。</td></tr>
<tr><td>1.就学後の児童の動向で学童クラブに通う子どもは1年生から4年生が多い。高学年になると私学希望者は進学塾へシフトする。学童クラブは整備されてきたがN小学校の低学年児童数は500人で学童には70人から100人が通っている。残りは公文や習い事の子どもと、家に閉じこもる（ゲーム）子どもが増えている。特にコロナ以降に顕著であると保護者から聞いている。
2.折角、学童クラブがあっても一時的になじめない子どもや家庭の事情、費用負担（月額の料金平均5千～6千）で、おやつ代は別途である。
3　算数の力をつけてほしいという保護者からの要望もあった。</td><td>①目標とした「子どもの居場所」としての「てらこや」は当初の目的通り1年生から4年生が参加し、子どもたちに居心地の良い場を提供することができ、目的を十分に果たすことができた。各自が宿題の持ち込み、自由に勉強、「てらこや」で用意したプリント挑戦、休憩時間に皆で飲み物補給と談笑、保護者からの反応も「このように柔軟に対応してくれる場所が欲しかった」という言葉をいただいた。
②潜在的ニーズは掘り起こせば多いようだが、現状では、施設の確保並びに講師・スタッフ確保とそれに伴う事業費拡大で増やすことができない。空き家の利用などを含めた工夫が必要であると感じた。
③算数の力は文章問題を主としたことで問題の読解力がつき向上してきた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【自己評価】　いずれかにチェック（「レ」）を入れてください
☑①あった　☐②概ねあった　☐③あまりなかった　☐④ほとんどなかった</td></tr>
<tr><td colspan="2">団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。</td></tr>
<tr><td>団体は荻窪地域密着型であり、事業は子どもに特化しています。講師の先生は学識豊かな経験者で、しかも地域町会にも貢献しておられる人材である。</td><td>荻窪の中心である荻窪地域区民センターを利用、後半は中道寺のご協力を得て場所をお借りすることができ、保護者にとっても安心して任せられる場で開催することができた。講師の先生は学識を持つ豊かな人であると同時に、地域に貢献している方であり、必然的に「てらこや」の話も広がり、新たなボランティアの方も加わっていただいたことは、活動の継続・発展に大きな収穫であった。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【自己評価】　いずれかにチェック（「レ」）を入れてください
☑①できた　☐②概ねできた　☐③あまりできなかった　☐④ほとんどできなかった</td></tr>
<tr><td colspan="2">当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。</td></tr>
<tr><td>（区民や地域にもたらす具体的な効果はどのようなものがあると考えていますか）
「てらこや」は荻窪地域ではありますが、地域各所から安全に通えるところで子どもが集い、子ども同士の新しいつながりが生れ、子どもたちが大人になった時に地域活動というものをわかってくれると期待する。

（助成を受けることで、団体活動や事業発展にどのような効果（継続性・発展性）がありますか）
助成を受けることにより、このような事業を持続出来うる人材の発掘につなげ、地域力を高める効果を期待できます。</td><td>（区民や地域にもたらす具体的な効果について）
「てらこや」へ参加する子どもたちは荻窪地域の桃井第二小学校区、西田小学校区のほか、杉並第七小学校区からも幅広く集まり、違う学校同士の子どもの交流が出来た。学習以外でも’カルタ合戦’や’羽根つき’などの遊びを通じて,よりお互いを知ることができた。これらの関係づくりで地域のイベント（例：センター祭り、神社のお祭り、節分豆まき等）への積極参加を勧め、保護者も含めた交流に発展してきている。将来的に子どもが集い、子ども同士の新しいつながりが生れ、子どもたちが大人になった時に地域活動というものをわかってくれることを期待する。

（助成を受けることで、団体活動や事業発展にどのような効果（継続性・発展性）があったか）
助成を受けることにより、子どもたちの居場所を作るという事業を新たに起こしたり、持続出来る人材が出てきた。
このため継続的な助成事業は有難く大切だと感じた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【自己評価】いずれかにチェック（「レ」）を入れてください
☑①できた　☐②概ねできた　☐③あまりできなかった　☐④ほとんどできなかった</td></tr>
<tr><td colspan="2">今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。</td></tr>
<tr><td colspan="2">「てらこや」に対して、地域の方の関心と評価が確実に高まっていると感じる。実際、見学者やボランティアでの参加者が増えている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【自己評価】　いずれかにチェック（「レ」）を入れてください
☑①広がった　☐②多少広がった　☐③広がらなかった</td></tr>
</table>

団体名：	楽学倶楽部

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	子どもたちの’居場所づくり’を目的にした「てらこや」は、まず、事故やトラブルなく実施でき、子どもたちが毎回楽しみにして喜んで通ってくることで保護者から感謝された。 講師やボランティアが子どもに対して適切に対応したことで学力の向上がみえたことと、違う学校、違う学年の子どもたちが協力して行動することを学びお互いに交流できた。
	☑①できた　□②概ねできた　□③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	この事業は「杉並区NPO支援基金の助成金」で運営されていることをのぼり旗を作り会場に設置、チラシ配布や支援募金箱を設置して広報活動した。募金箱に大金ではないが小銭が入っていたことで認知されたと感じている。
	【自己評価】 いずれかにチェック（「レ」）を入れてください □①できた　☑②概ねできた　□③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった

5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	**事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。**
	「てらこや」開始・終了時に、送り迎えの保護者から当日の子どもの状況や希望する学習内容の聞き取りをするよう努めている。「てらこや」での様子を必要に応じてメールでお伝えするようにしている。このような中で事業への意見収集を行っている。
	参加者のうち、どのくらいの人数から感想や意見を集めることができましたか。
	毎回ではないが、参加者（子どもたち、保護者）全員の声を収集することができている。
	貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。
	・保護者へのアンケートを実施した。 　子どもたちが「てらこや」に来ることを楽しみにしている。 　開催場所や時間について満足 　講師やスタッフについて満足 ・その他 　学校での学習態度への変化がみられた。 　兄弟への心遣いや態度に変化がみられる。
収集した意見の活用	**収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。**
	保護者の情報と講師側の観察から、子どもによって、得意・不得意、学習態度の違い（真面目にコツコツ・集中力が続かない・なかなか学習に入れない・他にちょっかいを出す　など）は千差万別であるため、その日その日で子どもたちは違うことを十分理解し、一人一人の個性に合わせた対応を臨機応変にしていくことを心掛けている。 今後も講師ボランティアで共有し進めていき、保護者の期待にこたえられるようにしたい。

6 課題と今後の活動について

課題と今後の活動	・「てらこや」もコロナ禍を乗り越え継続してきたので、それなりの経験と効果的な運営が定着してきたと感じるので、さらに高められるよう講師一同取り組んでいきたい。 ・2時間連続（休憩時間あるが）で同じ科目を勉強させると集中力が切れるので、別の教科を織り交ぜるなどの方法を考えていきたい。 ・中道寺という場所を活かした運営方法を検討していきたい。

7　活動状況について　　　　団体名:　　　楽学倶楽部

地域区民センターでのてらこやでの授業風景　7月

マンツーマン指導

羽根つき　12月

カルタ取り源平合戦　1月

中道寺での「てらこや」授業風景　1月

団体名：	楽学倶楽部

８　収支決算

事業費	【D】 206880	助成金	【E】 170,000

		予算額	決算額	決算額内訳
収入	団体負担金	5,089	4,880	
	参加費・資料代等	36,000	32,000	200円×延べ人数160人
	その他の収入			
	計	【C】 41,089	【F】 36,880	自己資金等
	助成金	【B】 170,000	【E】 170,000	NPO活動資金助成金
	合計	【A】 211,089	【D】 206,880	

	費目	予算額		決算額		決算額内訳
		助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
支出	①謝礼金（講師が団体内部の場合は対象外）			72,000		講師謝礼
						2000円×2名×18回
	小計	72,000		72,000	0	
	②旅費・交通費					講師交通費（バス代）
				4,600		荻窪駅～荻窪4丁目　230円×10回×2
				3,680		荻窪駅～川南　230円×8回×2
	小計	8,280		8,280	0	
	③消耗品費			6,557		コピー用紙・プリントインク
				8,990		中道寺会議机保護テーブルクロス
				8,101		お茶・ジュース代
				3,149		文具等
	小計	26,797		26,797	0	
	④役務費			8,472		請求郵送代　切手84円×38、110円×48
				6,336		行事保険　18回分個々の数は参加者予定数で変化
				1,015		同上振込手数料
	小計	15,823		15,823	0	
	⑤印刷製本費（デザイン・原稿作成含む）			1,100		コピー代
	小計	1,100		1,100	0	
	⑥使用料・賃借料			15,000		荻窪地域区民センター　1500円×10回
				24,000		中道寺　　3000円×8回
	小計	39,000		39,000	0	
	⑦その他の経費			7,000		ボランティア弁償（図書券）
						1000円×2名×2回、　1000円×1名×3回
					36,880	おやつ代　18回分
	小計	7,000		7,000	36,880	
	合計			170,000	36,880	0 戻入額【B】－【E】
		【B】 170,000	【C】 0	【E】 170,000	【F】 36,880	
		【A】 170,000		【D】 206,880		

助成金対象事業報告書（令和6年度）

団体名	特定非営利活動法人まちの塾freebee
事業名	子ども食堂と連携した中高生のための学習支援事業
事業（該当区分に〇）	1．スタートアップ事業　2．ステップアップ事業（〇）
事業概要	不登校や学校外に十分な学習の場を求められない子ども達を重点的な対象とした無料学習支援を行う。子ども食堂と連携してより多くの子どもたちに学習だけでなく食事の機会を通して子どもたちの様々な課題に寄り添うための事業
事業目的	この事業では、子ども食堂による食事の提供と、当団体が開催する無料学習支援活動が連携し、支援の届きにくい子どもたちに対して、学習と食事の場を提供することを目的とする。有料の塾に通う機会が得られ難い子どもたちに対して地域の社会人講師による質の高い支援を毎週提供し、また、子ども食堂との連携により子どもたちの孤食をさけるとともに、子ども食堂と学習教室双方への参加を促し、子どもたちのQOLをあげる。

1　事業の実施状況　及び　自己評価

	事業計画	事業実施結果
実施状況	①実施対象者・対象人数（延べ人数） 区内在住の中高生約600人	①実施対象者・対象人数（延べ人数） 区内在住の中高生400人
	②実施内容 中高生対象に無料の学習支援を行う。 子ども食堂との連携により食事の提供を行う。	②実施内容 中高生・高校中退生を対象に無料の学習支援を行った。子ども食堂との連携により毎月1回の食事とおにぎりの提供を受けることができた。英検合格者2名、高校進学者1名、大学進学者6名。英語での教科指導が必要な生徒が3名在籍している。その内1名は高校受験申請・合格後の書類提出に通訳可能な講師が同行して支援を行った。引き続き東京学芸大学こどもの学び困難支援センターと協働して引きこもりの生徒の支援を行い大学進学を支援した。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 場所：イマジナス 実施回数：36回　（4回／月×9ヵ月＝36回） スケジュール：毎週金曜日18時～21時（教室は18時45分～20時半） 18時～18時45分：準備時間　（子ども食堂の片付け含む） 20時半～21時：講師ミーティング ※16時半から18時半：エルガーハウス・わくわく食堂による子ども食堂が開催される	③実施回数・スケジュール・実施場所 場所：イマジナス 実施回数：42回（34回(助成活動)+8回（受験前対応）） スケジュール：毎週金曜日18時～21時※子ども食堂の開催が毎月4回予定➡毎月１～2回に変更があったため、授業を18時からの開催とした。
	④実施体制（実施方法や設備、従事者等の確保状況） 講師12名（登録済み） 運営事務1名	④実施体制（実施方法や設備、従事者等の確保状況） 講師12名・運営事務1名
	⑤広報活動（活動や事業の周知・PRの状況） チラシ配布・団体WEBサイト 近隣の学校へのチラシ配布や事業説明・町内会へのチラシ配布	⑤広報活動（活動や事業の周知・PRの状況） チラシ配布・団体WEBサイト 近隣の学校へのチラシ配布や事業説明・町内会へのチラシ配布・杉並交流協会への事業説明・子ども食堂のSNSのよる告知をお願いした。

団体名： 特定非営利活動法人まちの塾freebee

２ 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

効果・成果 及び 自己評価

事業計画時	事業実施後
当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
現在フリービー教室に通っている生徒の多くが、家計の負担と折り合いをつけながら学校外での学習機会を獲得せざるを得ない状況にある。教科の中では特に英語・数学の学外での学習機会の獲得状況に家庭の経済格差が如実に反映されており進学にも影響を与えている。子ども食堂の参加者の中にも学習支援を求める生徒がいることが予想され、また学習支援教室に参加する子どもたちにとっても、放課後、子ども食堂に参加して夕食の心配をせず、同じ場所で学習に臨むことができることは、大きなメリットになる。	高校中退後の学び直しの生徒が3名、海外から日本に定住した生徒が3名、不登校からの大学進学希望者が2名と、今年度は支援につながりにくい生徒の参加が目立った。子ども食堂は残念ながら予定通りの開催とならなかったため食事の時間から参加する生徒はほとんどいなかったが、子ども食堂からおにぎりの提供を頂くことができた。高校生の大半は夕食を済ませずに教室に来るため食事の場があることは有益と考えるが、施設と子ども食堂活動団体の調整が難しかった。海外からの生徒の状況として数学が日本のカリキュラムよりも遅れていることが多く、日本語の修得と共に算数基礎の定着が求められると感じた。
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください ☑①あった　□②概ねあった　□③あまりなかった　□④ほとんどなかった	
団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
杉並区内では子ども食堂事業が活発に行われている現状ではあるが、進学を見据えた学習支援まで行っているところは少ない。子ども食堂と連携することによって学習支援を必要としている子どもたちに教室への参加を促すことができる。当団体には、杉並区及び近隣地域に住む高学歴のシニア層が多く在籍しており、ボランティア講師としての意欲が高く、子どもたちの心に寄り添い、地域で長く伴走型の支援を実現している。	子ども食堂との協働で開いた西荻窪教室が軌道に乗り、毎週高円寺・西荻窪の両教室に通う生徒もいる。また、今年度、子ども食堂との連携によって新たに高円寺教室に参加した生徒は4名。当団体に登録しているボランティア講師は、高円寺教室・西荻窪教室・高円寺学園補習教室で学習支援を行っている。
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください □①できた　☑②概ねできた　□③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった	
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。	
子どもたちは学習する機会を増やし地域のボランティア講師とのつながりを持つことで意欲的に学習に取り組むことができる。子ども食堂では食事を楽しみながら様々な仲間や支援者と関わることができる。地域の支援者やボランティア講師は子どもたちの成長に関わることによって、自らのスキルを生かしながらやりがいを感じることができるというお互いさまの関係を地域で構築できる。また、同じ施設で子ども食堂が開催されるためきちんと食事を摂った後に学習教室に参加することができる。当団体にとっては、子ども食堂と同じ場所を使うことで、年間通して場所の確保できる。子ども食堂のSNSで教室開催のアナウンスができるため周知が広がるという効果が考えられる。	子ども食堂開催予定の時間が空いたため18時から教室を開いたところ、18時から20時半まで学習に参加する生徒が増えた。特に受験を控えた高校生は2時間半授業に参加し学習に集中していた。子ども食堂で食事を済ませてから学習に臨む形はほぼ実現できなかったが、おにぎりを頂けたので大変有難かった。また、子ども食堂から学習につながった生徒もおり今後も連携を継続したい。地域のボランティア講師の活動参加率は高く、高円寺学園での補習授業でも活躍頂いている。海外生活が長い講師が複数在籍しているため、日本在住期間が短い生徒に対して英語・フランス語でも他教科を指導できたことは団体活動にとって大きな助けとなっている。
【自己評価】いずれかにチェック(「レ」)を入れてください □①できた　☑②概ねできた　□③あまりできなかった　□④ほとんどできなかった	
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。	
講師希望者が増えて、様々な背景の生徒が集まったことから、地域での周知が広まったと感じている。HPへのアクセスが増えて、地域の子ども食堂との連携が深まった。	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください □①広がった　☑②多少広がった　□③広がらなかった	

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	子ども食堂からの生徒の参加があり、またこども食堂からおにぎりを提供頂き、食事と学習のコラボは一部実現できたと思う。子ども食堂で食事を済ませてから学習に望むという形は実現が難しかった。学習面では例年通りに英検、高卒認定試験、高校・大学進学、補習の支援を行うことができた。
	【自己評価】いずれかにチェック(「レ」)を入れてください ☐①できた ☑②概ねできた ☐③あまりできなかった ☐④ほとんどできなかった

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	学校や子ども支援団体を通じて広報活動を行った。次年度は広報する範囲をもっと広げる必要があると感じている。
	【自己評価】いずれかにチェック(「レ」)を入れてください ☐①できた ☑②概ねできた ☐③あまりできなかった ☐④ほとんどできなかった

5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	**事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。**
	毎回授業終了時に授業の振り返りをして、講師から生徒の状況の聞き取りを行っている。保護者と面接を行い連絡を取り合うことにより学校・家庭での様子の把握につとめている。
	参加者のうち、どのくらいの人数から感想や意見を集めることができましたか。
	ほぼ全員。
	貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。
	子ども食堂は小さな子どもたちの参加が多いため、中高生は参加し難いという感想があった。学習面では、例年通り授業回数を増やして欲しいという声が上がっているが、資金的に難しいことを説明した。
収集した意見の活用	**収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。**
	子ども食堂には小さな子どもたちが多く集まるため、中高生からは参加し難いという意見があった。また、子ども食堂の食事提供数には限りがあるため、小さな子を連れた家庭を優先したい、自分たちは帰宅してから食べるので遠慮するという話もあった。西荻窪教室のように、子ども食堂が既に開かれている場所で小さな学習支援教室を開きたいという地域の声を頂いた。食事については子ども食堂よりおにぎり・お弁当の提供を受けて食事をすることができた。子ども食堂と学習との協働開催を広げることについては、今後の課題と考える。

6 課題と今後の活動について

課題と今後の活動	イマジナスでは区からの受託事業者が学習支援教室を開くことから、当団体は開催施設を高円寺北区民集会所に戻して、現在連携している子ども食堂との協働は互いに広報を行うことで継続することとした。今後も形を変えて新たに子ども食堂との連携が可能か探っていきたい。

7　活動状況について

団体名：特定非営利活動法人まちの塾freebee

★具体的な活動風景の写真などを貼付

団体名： 特定非営利活動法人まちの塾freebee

８ 収支決算

事業費	【D】 143,759	助成金	【E】 116,000

		予算額	決算額	決算額内訳
収入	団体負担金	26,400	27,759	
	参加費・資料代等			
	その他の収入			
	計	【C】 26,400	【F】 27,759	自己資金等
	助成金	【B】 116,000	【E】 116,000	NPO活動資金助成金
	合計	【A】 142,400	【D】 143,759	

	費目	予算額		決算額		決算額内訳
		助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
支出	①謝礼金（講師が団体内部の場合は対象外）					
	小計			0	0	
	②旅費・交通費					
	小計			0	0	
	③消耗品費			10,000	8,129	中高生入試過去問・教科書問題集等
	小計	10,000	5,000	10,000	8,129	
	④役務費					
	小計			0	0	
	⑤印刷製本費（デザイン・原稿作成含む）				5,200	チラシ作成・デザイン費(100部)
	小計		5,200	0	5,200	
	⑥使用料・賃借料			106,000	7,400	会議室使用料
						イマジナス＠3,400円×33回＋1,200円×1回
	小計	106,000	200	106,000	7,400	
	⑦その他の経費				7,030	塾総合保険（損保ジャパン）
	小計		16,000	0	7,030	
	合計			116,000	27,759	0 戻入額【B】－【E】
		【B】 116,000	【C】 26,400	【E】 116,000	【F】 27,759	
		【A】 142,400		【D】 143,759		